

授業科目名 ( 英文名 )	災害情報論 (Disaster Information)	科目区分 対象学生	
単位数	2.00	開講年次・ 学期	2 年次・前期
担当教員	木村 玲欧	所属	環境人間学部
オフィス・場所		連絡先	
講義目的及び到達目標	<p>災害時に適切な行動・支援を行うためには、被災者の心理・行動特性を理解した上で、必要となる情報を収集・整理・発信することが必要である。本講義では、災害時の人間心理・行動の基本的部分を学び、災害時に適切な対応・支援をするための情報の利活用を考える。</p> <p>本講義の到達目標は、1) 災害時の心理・行動の基本的部分を理解すること、2) 災害時に適切な対応・支援をするための情報の利活用ができるようになること、である。</p>		
講義内容・授業計画	<p>&lt; 授業内容 &gt;  災害発生後の時間経過にともなう被災者心理・行動と、各段階における情報課題と解決策について概説した後、適切な対応・支援を行うための理論と実践について、過去の災害知見・教訓をもとに考察する。</p> <p>&lt; 授業計画 &gt;  1. 災害時における被災者情報の必要性  2. 災害過程と情報課題 ( 1 ) 災害過程の原理  3. 災害過程と情報課題 ( 2 ) 失見当  4. 災害過程と情報課題 ( 3 ) 失見当期の備え  5. 災害過程と情報課題 ( 4 ) 被災地社会の成立  6. 災害過程と情報課題 ( 5 ) 被災地社会の成立期の備え  7. 災害過程と情報課題 ( 6 ) 災害ユートピア  8. 災害過程と情報課題 ( 7 ) 災害ユートピア期の備え  9. 災害過程と情報課題 ( 8 ) 現実への帰還  10. 災害過程と情報課題 ( 9 ) 現実への帰還期の備え  11. 災害過程と情報課題 ( 10 ) 創造的復興  12. 災害過程と情報課題 ( 11 ) 創造的復興期の備え  13. 災害情報と心理・行動 ( 1 ) 気象情報の原理と実態  14. 災害情報と心理・行動 ( 2 ) 災害情報を未来の教育に生かす  15. まとめと評価 ( 到達度の確認 )</p>		
テキスト	『災害・防災の心理学 - 教訓を未来につなぐ防災教育の最前線』( 木村玲欧、北樹出版、2015 ) 本教科書の 2 章、4 章～ 8 章を中心に深掘りしていく。 必要に応じてプリント等を適宜配布する。		
参考文献	特になし		
成績評価の基準・方法	成績評価の基準 災害時の心理・行動の基本的部分を理解し、災害時に適切な対応・支援をするための情報の利活用ができる者に単位を授与する。 講義目的・到達目標に記載する能力 ( 知識・技能、思考力、判断力、表現力等 ) の到達度に応じて S から C まで成績を与える。 成績評価の方法 定期試験 50%、授業での小レポート 50% を基準として、受講態度などを含めて総合的に評価する。		
履修上の注意・履修要件	・ 授業において、小レポートや、場合によってグループワークを課すので積極的に出席・参加すること。 ・ 授業中に指示した宿題や事前・事後学習はもとより、「講義内容・授業計画」に記載したテキスト等の該当箇所などについて、十分な予習・復習をして講義に出席すること。 ・ 当授業は履修者を教室定員の 1/2 未満に制限し、対面授業を行います。履修希望者が定員を超える場合は、ランダム抽選により履修者を決定する場合があります。なお、		

	<p>履修希望者が定員を若干名超える場合は、履修希望者全員の履修を認める場合もあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルスの感染拡大の状況によっては、履修者を複数の教室に分けて教室間をオンラインで繋ぐ方法や、対面授業と自宅でのオンライン授業を隔週実施する方法とする場合があり、自宅等でオンライン授業の受講を視聴できる通信環境(PC・タブレット等の端末やWi-Fi環境)が必要となる場合があります。最終的な授業方法は履修登録後に決定・連絡します。</li> </ul>
実践的教育	該当しない
備考	<p>担当教員は、心理学・行動学・教育学・社会調査法をもとにした災害・防災研究を行っている。この講義は、担当教員の専門分野の1つである「災害時の心理・行動」についての基礎的部分を解説するものである。詳細は教員研究者データベースHP (<a href="http://kyoin.u-hyogo.ac.jp/">http://kyoin.u-hyogo.ac.jp/</a>) を参照のこと。</p>